

運動会の起源

2014.5.26 校長 西谷 秀幸

いよいよ今週の土曜日は、「わが町 板八小の運動会」ですね。

学習発表会とか展覧会とかは、2年に一度や3年に一度しか行いませんが、運動会は毎年行います。板八小だけじゃありません。日本のすべての小学校で行います。会社とかで行う運動会もあります。

では、運動会はいつから行われるようになったのでしょうか。

日本で最初に「運動会」という名前が付けられたのは、今の東京大学なのだそうです。明治時代といって、今から130年くらい前になります。その後、日本全国の学校で運動会を行うように、最初の文部大臣が命令をしました。

しかし、学校はとても困ってしまいました。そのときは、まだ、ほとんどの学校に校庭がなかったのです。

そこで、神社やお寺の境内を借りて運動会をすることにしました。でも、場所を借りるには、神社やお寺の人だけでなく、それらのお世話をする地域の人（=氏子・檀家）の許可をいただかなくてはなりません。

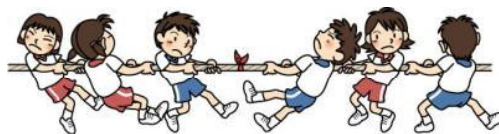
そのため、地域の方に学校の運動会と一緒に参加をしてもらうことになりました。そして、一緒に参加してもらうために、どんな人でも楽しめる「パン食い競走」や「大玉転がし」のような競技ができたのです。中には、「ブタ追い競走」というのもあったのだそうです。

1・2年生は「玉入れ」を行いますね。これは、バスケットボールを変化させた競技なのだそうです。5・6年生の「騎馬戦」は、誰が政治のリーダーになるかを競う姿をゲームにしたものでした。そして、全校で行う「綱引き」は、秋にたくさん作物が実ったり、たくさん魚が捕れたりしたのを祝うための地域行事が姿を変えたものでした。だから、運動会は秋に行うところが多かったのです。



ちなみに、「玉入れ」も「綱引き」も運動会だけの競技かと思ったら、「玉入れ」は「全日本玉入れ協会」、「綱引き」は「国際綱引き連盟」という団体があって、それぞれ日本一や世界一を決める大会が毎年行われているのだそうです。

また、「運動会」は、赤組と白組に分かれて戦いますね。6年生は、もう少ししたら歴史の勉強で習いますが、昔、源氏と平氏という武士が、どちらが日本のリーダーになるか戦いをしたときに、敵と味方を区別するために、赤と白の旗を背中に付けたことがもとになっているそうです。（赤…平氏、白…源氏）



そして、当時は、運動会の会場が家から離れている場合も多かったため、遠足のような面もあって、お弁当を作るようにもなったのです。

日本の運動会のようなスポーツ大会は、外国ではとても珍しいのだそうです。そして、地域の人と一緒に参加して楽しむところは、板八小の運動会にとっても似ていますね。

では、運動会に向けて、今週、最後の練習をがんばりましょう。そして、地域の人たちとすばらしい運動会にしましょうね。

お話を終わります。

（裏面に「先生方へ」があります）

〈先生方へ〉

いよいよ、今週末が運動会となりました。「子供は本番に強い」と言われることもありますが、「練習でできないことは、本番でもできない」とも言われます。当日に100%のパフォーマンスを発揮できるように、前日に120%の演技で終わらせ、子供たちの士気を高めていきたいですね。疲れもピークに達して、ケガが多くなる時期ですから、ピシッとさせるところと緊張をほぐして休ませるところを分け、メリハリをつけて指導していくことを心がけてください。

さて、今回は「運動会の起源」について話をしました。この内容については、昨年度の学校だより6月号や校長通信No.7でも紹介していますが、あえて子供向けの内容に再編成して、話すことにしました。各学年で発達段階に応じて、指導と補足をお願いします。

【資料】 運動会の起源について

日本では、学校はもちろんのこと、会社の運動会、町内の運動会などたくさんの運動会が行われる。種目もかけっこやリレー、騎馬戦などとならんで、パン食い競走や障害物競走、フォークダンスなどがある。会社の運動会となると、仮装行列がある場合もある。

そう考えてみると、運動会とは実に奇妙なイベントである。パン食い競走とはいったい何を競う競技なのだろうか？スプーン・レースや大玉転がしは、いったい誰が何のために考え出したのだろうか？騎馬戦や棒倒しは？どうして仮装行列などというものがあるのだろうか？

こんな奇妙な種目のあるスポーツ大会は、外国には存在しない。オリンピックの競技にもない、日本独自のおもしろい種目が含まれている。どうして日本人は、こんな奇妙なスポーツ大会を生み出したのだろうか？

運動会の起源は、明治7年に築地の海軍兵学校でイギリス人教官のもとに催された「競闘遊戯会」とされている。以後、札幌農学校の「力芸会」、東京大学予備門の「運動会」と続く。東京大学予備門とは、第一高等学校（現在の東京大学）の前身にあたる。学校教育が始まって間もない明治16年10月、勉強ばかりやっていると潤いなくなるので、多くの人々に見せるために始まったらしい。運動会という名称で行われた競技会は、どうやら東京大学が最初のものである。

その運動会が学校行事として定着するのは、初代文部大臣の森有礼が文部省令を発したことに端を発している。森文部大臣は、横浜の外国人租界地で行われた陸上競技会を見物して体育教育に有効と判断し、全国の小中学校で運動会を催すよう訓令を発したのだった。

しかし、命令を出された方は、大いに困惑した。なにしろ教育制度が定まったばかりの時代だから、運動場なんていう施設はなかった。困った学校関係者は、いくつかの学校で話し合い、合同で神社や寺の境内を借りて運動会を開催することを考えた。ただし、場所を借りるためには、氏子や檀家という神社やお寺と関わりのある地域の人々の許可が必要になる。そのため、生徒がただ競走するだけでなく、氏子や檀家も一緒に参加してもらおうということで、彼らが参加できるような競技を考える必要が生じた。今でいうなら「住民参加」である。そして考え出されたのが、どんな人でも楽しめる娯楽性の高いパン食い競走や大玉転がし（中には、ブタ追い競走というのもあった）だった。

さらに、どうせ神社やお寺でイベントを行うなら、夏祭りや秋祭りも一緒にしてしまおう、ということになり、中央に檣を組み、盆踊りや豊年満作踊りなども運動会でするようになった。これがフォークダンスのルーツである。つまり、運動会は、参加するすべての人々のためのお祭りだったのである。また、運動会の会場が家から離れている場合が多いということもあって、遠足という要素も混じった。そして、お弁当を作るという習慣ができたのである。

では、騎馬戦や棒倒しはどうして始まったのだろうか？それは、国会が無かった時代に国会を開くことや憲法を作ることを主張した政治運動＝自由民権運動がルーツであった。当時は政府の力が強く、自由民権運動が激しく弾圧された時代で、政府に反対する自由民権の志士たちは、意見を堂々と言うことができず、街中で演説することもデモ行進をすることも集会を開くことも法律で禁止されていた。

そこで、自由民権運動の壮士たちは、自分たちの主帳をどのようにして聞いてもらおうかと考え、運動会に目をつけた。「最近流行の運動会をするのなら、演説でもないし、デモでもないから弾圧されないだろう」と。そして、「壮士運動会」と称するイベントを開催し、そこで「政権争奪騎馬戦」「圧政棒倒し」「自由の旗奪い合い」といった競技を創り出した。騎馬戦は、だれが政治のリーダーになるかを競う姿をゲームにしたものであり、棒倒しは当時の政府を倒す意味をこめて棒を倒すものだった。つまり、すべては競技にまぎれて彼らの言い分を国民に聞いてもらうためのものだった。さらに、その合間にデモを行い、「議会をつくれ」「政府反対」とか言いながら、民選議会（国会）の設立を訴えたり、薩長藩閥内閣の打倒を叫んだりした。そのデモンストレーションが、のちに仮装行列に変わったのである。

それら2種類の運動会が混ざり合い、現在の運動会に発展した。運動会は、日本人の豊かな遊び心が創りあげたものなのである。

ちなみに、「玉入れ」はバスケットボールを、「障害物競走」はイギリス発祥の乗馬障害レースをアレンジしたものである。また、「綱引き」は、豊作や豊漁を祝うための地域行事が形を変えた種目だった。そして、それらは運動会限定の競技かと思いきや、玉入れは全日本玉入れ協会主催の国内大会が、綱引きは国際綱引き連盟主催の世界大会が、それぞれ毎年開催されている。